

Japanese Language Module 2-1 Cleared Interview Transcript

インタビュアー：浅野先生、今日はお忙しいところ、お時間をさいてくださり、本当にありがとうございます。浅野先生には、まず、自己紹介を簡単をお願いいたします。

浅野：はい、浅野耕平と申します。日本に住んでいます。インタラクティブアートの作家をしながら、東京工芸大学の芸術学部インタラクティブメディア科という所で、教員もしております。よろしく申し上げます。

インタラクティブアートというのは、一般的には、メディアアートという大きなジャンルがありまして、コンピューターなどを使った先端技術を使って、表現活動[をするんですが]、美術の中では、わりに最近のジャンルだとも思いますけれども、その中でもインタラクティブアートという、コンピューターのインタラクションを活用して、対話性のある、体験型の作品を作るといようなことを作家活動でやっています。それらの活動で得たいろいろな知識ですとか経験というものを大学で実習などを通して学生のみなさんと共有するという仕事をしています。

インタビュアー：ちょっと個人的なことに入らせていただきますけれども、浅野先生はどちらでお育ちになって、そして小さいころに今のお仕事のようなものを したいと思っていらっしゃいましたか。何か関係あることを考えていたというような思い出は ありますか。

浅野：生まれは東京都中野区の生まれなんですけども、小学校の中学年ぐらいで、千葉に移り住んで、その後は、ずっと千葉で、育ったという、生まれというか、そういう感じですね。そうですね、子供のころ、ほんとに小さいころは、何か物を作ったり工作したりするのがすごく大好きだったようで、小学校の卒業アルバムを見ると、新しい機械を考えて、作る人になりたい、その社長になりたいみたいなことが書いてあったりしました。あとは、中学校で放送委員みたいのがあって、学校の校内放送をやったりとか、しゃべるというよりは、裏方仕事みたいなのが、すごく楽しくて、とっぷり、そういう活動をしていて、機材をいじったり、裏方的な仕事というのは、その時すごく興味を持ってやっていました。なので、大きな意味での方向性という感じでいうと、中学のころから持っていた機材をいじるとか、裏方仕事、舞台裏、そういったことにすごく興味があって、今につながっているかなと思っています。